

平成30年度「ともに生きる条例」について理解する職員研修（非常勤職員） アンケート集計結果

	開催日時	参加者数
①	平成30年8月27日 10:00～	27
②	平成30年8月27日 13:30～	23
③	平成30年8月28日 10:00～	26
④	平成30年8月28日 13:30～	29
参加者総数		105

1 業務において障がいのある人に対する合理的配慮を行ったことがありますか？

	ある	ない
①	8	19
②	12	11
③	13	13
④	18	11
合計	51	54

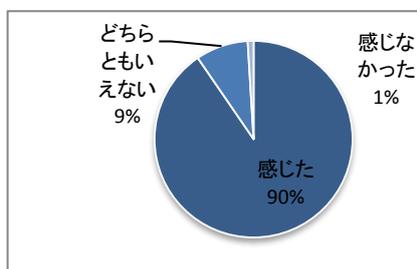
【行った合理的配慮の内容】

- ・車いす利用者の進行方向に、椅子があったため、椅子を移動させた。
- ・選挙事務で、体育館の入口階段で車いすの方を持ち上げた。
- ・代筆
- ・目の不自由な方の代筆、段差がある時の車いすの補助。
- ・同じ課に車いすを使う方がいるので、通りやすしたり、ドアを開けたままにしている。
- ・筆談での対応。
- ・窓口において、椅子をどけて、車いすが入れるように対応した。
- ・足が悪い方に、車いすを勧め、押して窓口まで案内した。
- ・聴覚障がいのある方が救急車を要請された時、スマートフォンのコミュニケーションボードを使用し患者さんの訴えを確認した。
- ・動線の確保。
- ・勤務内容に応じて作業を交代した。（下肢不自由）
- ・出来る限りゆっくり対応する。
- ・目線を合わせる。
- ・2階への移動は、通常階段を使用するようにしているが、足が不自由な方や荷物を運び辛い方には、普段は使わないエレベーターを開放している。
- ・車いすで来られたお客様に動線の妨げになる物を移動させる配慮を行った。
- ・物を渡す際に、カウンター越しではなく、傍で渡した。

2 本研修は必要と感じるものでしたか？

① 第1セクション 障害福祉課の説明について

	感じた	どちらともいえない	感じなかった
①	23	3	1
②	22	1	0
③	24	2	0
④	26	3	0
合計	95	9	1



【理由】

- ・漠然としか条例を知らなかったので、話を聞くことが出来てよかった。
- ・条例をつくるにあたっての背景、考え方を理解できた。
- ・合理的配慮のことを知ることができて良かった。
- ・「ともに生きる条例」の要点が分かったため。
- ・「ともに生きる条例」の施行に伴い、合理的配慮の必要性、市民サービスの平等性を改めて知ることが出来た。
- ・合理的配慮の言葉の意味が理解できた。
- ・困っている方が多数いることが分かった。
- ・障がいの種別や種別ごとの配慮等、具体例を紹介してもらい、分かりやすかった。
- ・条例のガイドラインが理解できて良かった。目的や目指すところを理解できた。
- ・障がい者への心遣いの認識、社会的障壁を意識するために必要と感じた。
- ・障がい＝身体的なものというイメージだったが、社会的なもの加わり障がいになるという認識が持てた。

- ・平等に公共サービスを受けられない状況自体が、差別に当たるという認識はなかった。
- ・資料があり分かりやすかった。
- ・条例の存在は知っていたが、中身を知る機会がなかったため。
- ・障がいといっても、その内容は様々で、そのニーズに合った対応をしなければならぬ事を考えた。
- ・法律、条例、マニュアルに従った対応であっても「障がい」を理由とした不利益な取扱いに陥る恐れがあり、「合理的配慮」を痛感したため。
- ・条例を文字だけで見るより、分かり易いと思った。
- ・合理的配慮という言葉する知らなかったため。また、そういった考え方を知らなかったため。
- ・発達障がいへの配慮は気づいていなかったため、考えるきっかけになった。
- ・条例の施行が、他市町村よりかなり早かったこと等、初めて知った。

「どちらともいえない」

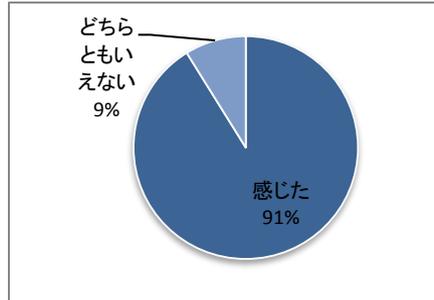
説明がよくわからなかった。

もう少し具体的な内容が知りたかった。

- ・別府市が率先して障がいの有無に関わらず、取組んでいることに興味した。

2② 第2セッション 当事者講師団講義について

	感じた	どちらともいえない	感じなかった
①	20	4	3
②	22	1	0
③	23	3	0
④	28	1	0
合計	93	9	3



【理由】

- ・窓口業務だけでは知り得ない、当事者やその家族の思いや苦勞を知ることができた。
- ・精神障がいのある人の家族の対応の難しさを感じた。
- ・実際の経験や思いを直接聞くことができるのは貴重だと思うため。
- ・実体験をお伺いでき、周りの支え、自分自身の責任の両方を感じることができました。また、当事者の家族の努力、支える側の大切さを知り、何をサポートすべきか学べました。
- ・障がい者の家族の苦しみを理解できた。
- ・当事者（家族も含む）の方は、本当に辛い思いをしていることを知ることができた。
- ・当事者でなければ分からない現状等を実際に聞くことができ、大変参考になった。
- ・当事者の話を聞くことにより、具体的な条例理解に繋がっていた。
- ・何となく目にしたことのあるスロープの利用等、当事者の方々が、どう感じているのか、知ることができた。
- ・具体的な話が聞いて良かった。
- ・リアルな話が聞いてよかった。もっと心配りしようと思った。
- ・写真があったので、よく理解できた。
- ・家族の大切さを感じた。

- ・当事者の話を聞くことで、今まで気づけなかった、障がい者からの目線で見るとの大切さに気づいた。
- ・自身で体験しなければ、健常者にとっての当たり前が、どれほど障がいのある方にとって辛いかが分からなかった。
- ・当事者の生の声は、気づかせてくれるものがあったので。配慮をしているつもり施設、設備であっても改善の余地がある。(実際は使いづらい)
- ・合理的配慮が成されていても、利き手、左右どちらに障がいがあるかによって、使いやすさが違う等、当事者でないと気づかないことが分かったので。
- ・ユニバーサルデザインの内容や、実際に公共施設でのバリアフリーが行き届いていないことを知ることができた。
- ・当事者の方が具体的にどういったことに困っているのか知ることができたため。
- ・ご家族のお話が聞けて、心の思い、苦勞を知ることができた。
- ・当事者の話を聞くと、自分では想像のつかない苦勞や、喜びがあることを知った。また、プラスな意見も聞けてよかった。

「どちらともいえない」

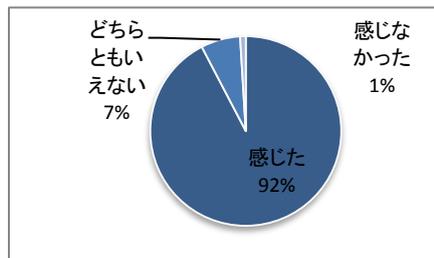
初めて聞く講和は、身体障害の方の話の方が分かり易いのではないかと。障がいも色々で、その人の性格も色々であり、すぐには実感できない。

「感じなかった」

精神疾患について話を受けても今後役立つようには思えなかった。

2③ 第3セッション 体験について

	感じた	どちらともいえない	感じなかった
①	25	1	1
②	22	1	0
③	21	5	0
④	29	0	0
合計	97	7	1



【理由】

- ・障がい者の大変さ、恐さを体験できた。
- ・車いすの操作やアイマスク状態での筆記等、これが常時続くことはかなりの負担であると感じた。
- ・自分で体験しないと分からない事があるので、実施して良かった。
- ・実際に体験することで、不自由さが分かったため。
- ・体験しないとわからないため。
- ・介護者の役割の重大性が理解できた。
- ・視覚が悪いと全てが不安で怖い、車いすはほんの少しの段差で進めない、体験しなければ分からない。
- ・車いす体験では、段差の感覚の違いが分かり、アイマスク体験では、補助者の声掛けの難しさを感じた。
- ・社会的障壁を理解することができた。
- ・実際に体験して、不自由さを感じた。声かけも難しかった。
- ・体験しないと、見えない不安感等、実感しづらいので。
- ・自身で体験しなければ、健常者にとっての当たり前が、どれほど障がいのある方にとって辛いかが分からなかった。
- ・自分がその立場にならないと、分からない事だらけだった。

【視覚障がいの体験】

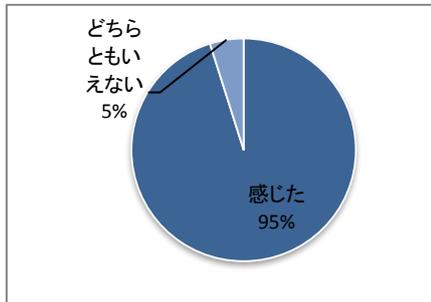
- ・誘導が肝心。今日は一連の流れが分かった上での行動だったが、全く見えないことは、とても怖い。

【車いすの体験】

- ・車いすを押すことはあったが、乗ってみることが初めてだったため。
- ・車いすでの段差の乗り越え方等、体験してみないとわからないので。
- ・車いすで数センチの段を昇る大変さ、見えないことへの恐怖感を少し感じることができた。
- ・車いす介助をする際、下り坂は当事者が後ろ向きになる理由が分かった。

2④ 全体をととして

	感じた	どちらともいえない	感じなかった
①	22	3	2
②	22	1	0
③	25	1	0
④	29	0	0
合計	98	5	2



【理由】

- ・勉強になった。
- ・「ともに生きる」という考え方を身をもって知ることができた。
- ・研修でないと学べない内容であり、充実していた。
- ・差別はどこにでもあるものだと身近に感じた。
- ・貴重な話、体験が出来た。
- ・研修の構成が良かった。
- ・頭の中だけでのイメージでは、寄り添えないと思った。
- ・再認識出来てよかった。
- ・職員だけでなく、一般の方への研修が必要と感じた。
- ・障がいのある方の体験談、自らが障がいを持った時の体験を通じて、障がいというものを、身近な事として捉える事ができた。
- ・今回の体験、講和で得た内容を今後の業務に行かせると思ったから。
- ・ユニバーサルデザインの必要性を感じた。
- ・まだまだ合理的配慮が足りないことばかりだと感じた。

「感じなかった」

- ・時間を割いて研修をしていただけるなら、座学内容等について、もっと精査した方が良いと思う。今後参加しようとは思えない。

3 研修会で学んだことを今後の職務にどのように取り入れますか。

- ・当事者の身になって行動していきたい。
- ・障がいを持っている方と接客する事もあるので、これを機に色々と目を配っていきたい。
- ・既存の規則に従うだけでなく、障がいをなくにはどうすべきか？という問いを常に持ち、どのような人でも使いやすいサービスを提供していきたい。
- ・障がい者の方と接する際の参考にしたい。
- ・車いすの方が来庁し、困っていたら積極的に声かけしていきたい。
- ・障がいのある方の身になって業務を行いたい。
- ・困った人を見たら、進んで手を差し伸べたい。
- ・市民の皆さんで共に助け合い生活していくことが大切だと感じた。
- ・自ら進んで配慮ができるように常に周りに目を配りたいと思います。
- ・体験で小さなことが大きな障壁になることがわかったので、困っている市民の方がいたら、なるべくその人の気持ちになり、気づけるようにしていきたい。
- ・支える側の人間として何が出来るか、日々感じ、考えていきたい。
- ・差別は常にあるものだと認識して、業務を行い、差別を少しでもなくして市民の安心・安全に役立っていきたい。
- ・全ての方に平等に接するよう心掛ける。
- ・接客対応において、その方の目線でゆっくりと分かりやすい対応を心掛けていきたい。
- ・視覚障がいのある方を誘導する時には、具体的に「〇歩前へ」等、分かりやすく声かけしたい。
- ・相手の目線にたち、研修で学んだ障がいの種別毎の配慮を参考に、適切で素早い対応を心掛けていきたい。
- ・なるべく周囲を気遣い、障がいを持っている方が困っていると感じたら、手を差し伸べたい。
- ・共存できる町になるように、普段から気を配れるようになりたい。
- ・機能障がいがあることにより、行政サービスが受けられない事柄に気づき、そうしたことが無くなるように努めたい。障がいのある方

が不安なく市役所に来てもらえるようにしていきたい。

- ・思っていた以上に、とても大変な事が多く、その事を考えた上での配慮が大切だと感じた。
- ・実際によく相手の話を聞きながら、どのような支援が必要なのか考え、お手伝いできるようにしていきたい。
- ・これまで配慮ある行動を心がけてはいたが、まだまだよく分かっていなかったのだと実感した。子どもにも伝えていきたい。
- ・困っているお客様に気づいたら、率先してお手伝いしたい。
- ・障がいのある方を見かけたら、まず声かけを行い、お手伝いできる事を伺いたい。
- ・相手の事を思い、必要に応じた対応を行いたい。
- ・障がいを持っている方が来庁された時は、何か困っている事はないか、その人の目線で常に考え、合理的配慮を心がけたい。
- ・窓口で業務を行う際に、特に車いすで来課される方への補助を積極的に行おうと思った。
- ・合理的配慮を実践していくためには、できるだけ多くの人の意見を取り入れ、出来るだけ多くの人が使いやすいものを提供する必要がある。
- ・少しでも手話を覚え、利用したい。
- ・窓口での申請書の記入の仕方、説明資料等、より配慮したものを考えていきたい。
- ・色々な事情を持った市民の方に、気持ちよく接することができるよう、常に配慮を持った姿勢でいたいと思った。
- ・合理的配慮の事例をもっと知り、目で見て分かる障がい、見てわからない障がいにも、どんな対応ができるのか考えていきたい。
- ・障がいのある方と対応する際には、もっと相手の方に寄り添った対応を心がけたい。
- ・今までとは違った視点で接客できると思います。
- ・定期的に各課で通路の点検（不要物がないか）等を行って欲しい。
- ・ともに生きる条例を理解し、合理的配慮が自然に行えるよう、考えながら職務につきたい。
- ・誰であれ、困っている人を手助けしていきたい。そこに障がいの有無で偏ることはしたくない。その人が不便に感じることなく、業務を行えるように小さな気づきからでも実践していきたい。
- ・大切なことは本当に簡単に「相手の立場になって感じる事、考える事」だと思った。

4 その他研修全般について、ご意見がありますか

- ・もっといろいろな体験をしてみたい。実際の現場（閉庁時）等でやってみてはどうか。
- ・時間の制約上、体験コーナーが少し簡素であると感じた。また、市の職員が「ともに生きる条例」のことを身を持って実践するには、を含め、より多くの時間を割いた方が良いと思う。
- ・日常「差別をしている」とは考えていなかったが、知らず知らずに差別をしていると感じた。
- ・条例の存在を初めて知った。たくさんの市民に知っていただき、配慮できる心がけを広めて欲しい。
- ・このような研修は必要であるし、普段から考える癖をつけることが大切だと感じた。
- ・障がいのある方、どんな方でも臆することなく、来庁いただけるよう環境整備を行う必要がある。
- ・体験研修は、絶対必要と思った。
- ・とても勉強になり、気づかされる事が多い研修であった。
- ・確かに合理的配慮を考えないといけないと思う。しかし財政面との兼ね合いもあり、一人の人として、少しでも生きる望みを持ってもらうことが大切である。
- ・今後も、このような研修を数年に1回受けるようにした方が良い。
- ・当事者の方の講義がとても心に響いた。手話を勉強してみたい。
- ・時間が経過すると印象が薄れていくので、定期的に受講できたらと思う。
- ・頭では分かっていたつもりでも、体験してみると、新たな発見があった。友人に障がいのある方がいて、買い物等のお手伝いをしているつもりであったが、まだまだ、足していないのかもと思った。改めて何が必要なのか聞いてみたい。
- ・障がいの方、お年寄り等に限らず、お客様、皆さまへの接客研修が必要だと感じた。
- ・講師の方とのふれあい（少人数グループに分かれて）の時間をもてたら、より良かった。個人的に聞いてみたかった。
- ・合理的配慮の具体例の説明を増やして欲しい。